

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)子どもたち一人一人の個性と可能性を大切にし、保護者や地域と共に育てる保育 2)子どもたちの心に寄り添い、健やかな心身の育成を促す 3)基本的生活習慣を身に付け、自立心と自発力を育む 4)友だちや家族を大切にする思いやりの心を育む
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 ・子どもの思いに寄り添い、愛情を持って保育を行うことができる。 ・保育理念を理解し、責任感と使命感を持って行動ができる。 ・協調性を持って、同僚に対して思いやりのある行動ができる。 ・子どもの安全や健康を確保し、自身の健康管理も徹底することができる。 (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) ・誰に対しても、誠意と思いやりのある行動ができる。 ・技術や知識の向上のために、積極的かつ自発的に学ぶ姿勢を持って行動ができる。 ・心身ともに健康を維持し、仕事の充実を図ることができる。

調査対象

2024年7月25日現在の施設の利用者(保護者) 11世帯(利用者総数 11名)を対象とした。

調査方法

アンケート調査による方法。保護者には、ウェブ調査回答用URLおよびIDを配布し、回答はウェブ上で収集した。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

11
11
11
7
63.6

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(86%、6人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか

問3. 園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか
(他、問4、問6、問11、問13、問14、問15 各々 100%、7人)

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	7	0	0	0
意見の記載なし。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	7	0	0	0
意見の記載なし。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	7	0	0	0
食事に関して、いつも丁寧に対応していただけるので助かってます。無理に全部食べさせるのではなく、少しだけ食べてみようなどの声かけやもうこれ以上は絶対に食べないと分かったら切り上げてくれるのが、ありがたいです。入園したときはミルクオンリーだったので、全然飲まない問題や離乳食に切り替わる時も親身になっていただけて大変助かりました。などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	7	0	0	0
意見の記載なし。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	4	3	0	0
特記すべき意見なし。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	7	0	0	0
意見の記載なし。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	6	1	0	0
意見の記載なし。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	6	1	0	0
意見の記載なし。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	6	1	0	0
意見の記載なし。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	6	1	0	0
意見の記載なし。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	7	0	0	0
意見の記載なし。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	6	1	0	0
個人情報保護で、どの子とトラブルになったかは教えてもらえない(こちらも強くは問い合わせない)が、子どもへの対応は問題ない。まだトラブルがないので対応という意味では現時点ではどちらとも言えないが、トラブルが起きないように見ていただけている状態だと思うので安心しています。 などの意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	7	0	0	0
意見の記載なし。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	7	0	0	0
意見の記載なし。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	7	0	0	0
意見の記載なし。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	6	1	0	0
園児の靴下や靴の取り違えも早急に相手方の保護者へ連絡してもらえて助かりました。 などの意見があった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	1	0	0
意見の記載なし。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○ 非該当
	カテゴリー1の講評	
	保育理念、保育方針は、わかりやすい言葉で表現され、職員に共有されている 本園の保育理念、保育方針はわかりやすい言葉で表現されているため、職員だけでなく利用者の方も理解がしやすい言葉となっている。理念等は、職員会議の中で確認するだけでなく、職員や保護者がいつでも確認できるよう、園内に掲示している。また、法人内で行う研修の中には、理念の理解を深めるための研修もある。新人職員が入職する際には、本社が作成したガイドブックを活用して理念等の説明を行っている。利用者に対しては、入園のしおり等に掲載し、入園時に保護者に説明を行っている。	
	園と法人本部との連携が密接になるよう、本部職員が職員会議に参加している 本園では、園と法人本部との連携がより密接になるよう、法人本部の職員が職員会議に参加し、記録を作成するなど密接に連携している。また、法人本部で行う施設長会議において、園の状況について丁寧に報告確認を行い、法人本部と園との連携を図っている。なお、法人本部としては、職員がコンプライアンスを遵守しつつも、主体的に動くことが出来るような環境整備に努め、様々な具体策を検討している。	
	重要な決定事項については、保護者にはICTシステムを活用して一斉送信している 重要な決定事項を保護者に連絡する手法とし、本園ではICTシステムを活用して一斉送信するとともに、直接保護者にも決定経緯なども含めて伝えている。また、職員への重要事項の傳達については、本部担当職員から園長に伝達し、そこから職員に説明している。基本的には職員会議による伝達が主であるが、ワンフロアでほとんど死角のない構造の小規模園であるため、急ぎの伝達は職員個々に話をしている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準项目实施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準项目实施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
利用者の意向は、ICTを活用したアンケートなどで把握している 利用者意向の把握については、ICTを活用して意向調査を行ったりしている。そこで集められた意見は、園長が分析して保育に反映している。また、登園や降園の会話、連絡帳での記載内容に指摘事項などがあれば共有して対応している。さらに、保護者との個別面談を行い、意向把握を行っている。地域の保育ニーズの把握するため、年3回地域の園長会に参加して、地域の状況や保育ニーズの変化について把握している。 職員の意向把握を年2回行うことで、園運営の改善点を把握している 職員の意向把握については、園長が行う面談を年2回行うとともに、希望者については、本部職員との面談を行うことで、課題を把握し改善につなげている。その結果、職員の定着率が向上して、開園7年目であるが、平均勤続年数が3.6年と向上した。園の計画は、中長期計画、単年度の計画いずれも法人本部で作成し、職員に対して説明を行っている。園では、年度計画に基づき保育に関連する全体的な計画、月案などを作成している。 法人本部で保育研究プロジェクト部門を有しており、その成果を共有している 福祉全体の動向については、法人本部の中で保育研究プロジェクト部門を有しており、そこでは例えば保育園でのインクルーシブ教育の普及状況などの研究を行っている。また、本園と連携して、保育士の目線がどこにあるかを研究し、その成果を園の保育に還元して質向上をさらに促すなど、法人独自の取組が行われている。園の収支については公開しており、園の玄関先にて情報開示をしている。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。		○ 非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○ 非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリ-3の講評		
職員がコンプライアンスで問題を感じた場合、外部機関に連絡できる 職員が、コンプライアンスで問題を感じた場合、園や法人本部だけでなく、外部機関に直接相談を出来るシステムをつくっており、そのことを職員に周知をしている。また、コンプライアンス研修を非常勤職員を含めて、年1回実施している。また、職員には職務基準書に基づいて、守るべき規範について説明を行っている。また、年2回職員面談を行うが、その際に「振り返りシート」により、規範などが適切に守られているかを確認している。 小規模園でも可能な手法で地域の保護者向けの講座や情報提供を行うことが期待される 本園は、園の規模が小さいことや他に優先して取り組むべき事項があったため、これまで地域で子育てを行う保護者向けの情報提供などは行ってこなかったが、職員の定着も進んだことでより園運営がより安定してきたため、今後は小規模園でも可能な手法で地域の保護者向けの講座や情報提供を行うことが期待される。虐待防止に関しては、現在どのような行為が虐待に該当するかを共有することで、職員間での考え方の統一を図っている。 園以外の相談先の周知がされているなど、相談先の周知に力をいれている 園では、重要事項説明書に基づき、園以外の苦情相談先として、第三者委員を確保しており、入園時に園以外の相談先の周知に努めている。利用者アンケートの結果をみると、全体の9割近い利用者が、園以外の相談先を知っているなど、周知が進んでいる。苦情等が発生した場合には、苦情受け付け担当者である園長が本部に報告を行うとともに、学識を有する第三者委員に助言や相談を受けながら、課題解決に進む仕組みとなっている。		

4			リスクマネジメント		5 / 5
サブカテゴリ1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5 / 5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる					
評点(〇〇〇〇〇)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○ 非該当
サブカテゴリ2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		4 / 4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている					
評点(〇〇〇〇)					
評価	標準項目				
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している				○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○ 非該当
カテゴリ4の講評					
事業継続計画(BCP)は、水害、地震等、5つの災害等を想定したものとなっている 本園は、事業計画計画(BCP)は、法人本部が作成し、隅田川と荒川にはさまれた新田地域の特性に応じた内容で作成されており、主に津波による水害や、地震等を想定している。津波による水害については、園が同居している大型マンションの上層階(隅田川等の水面の高さより上の階)への避難ができる体制となっている。また、保護者の方を対象として、災害時の引き取り訓練も実施している。 事故等においては、アクシデント報告書に記載して、原因を分析している 園内で怪我や事故が発生した際には、アクシデント報告書に記載して、原因や経過等を記載した上で再発防止策を検討する仕組みとなっており、記載した場合には園内だけでなく、本部や区と共有する仕組みとなっている。その他の少し気になる事項等については、園内でヒヤリハットの把握を行っており、職員間で共有している。避難訓練は月1回実施し、その都度テーマを決めて、さまざまな想定に対応した内容となっている。 園では個人情報の適切な管理に関する認証を行うとともに、研修等を行っている 園では、個人情報の管理を適切に行うため、外部機関が認定する個人情報に関する認証を行うとともに、職員に対して研修や、効果測定のためテストを行うことで、職員全体を対象とした意識の向上を図るようにしている。保育園内の情報管理については、職務基準書内に記載を行った上で、職員に説明している。データの多くはICTにより管理されており、職務階層により異なるアクセス権限が設定されている。					

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3 / 3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリ5の講評		
職員が働きやすい環境をつくったことで、職員の定着が進んでいる 本園では、職員が働きやすい環境をつくるため、残業時間の軽減、有休だけでなく夏期休暇も職員の意向を反映した内容とするなど、働きやすい環境をつくったことで職員の定着が進み、開園して7年経過した中で、平均勤続年数が3.6年と長くなっている。さらに、年2回職員との親睦会を開催したり、賞与の改善等を行っている。加えて、「こころの相談窓口」も開設したことで、職員が心理的に困った際に相談できる先を設けている。 法人が実施する研修が充実するなど、職員研修に力を入れている 本園は小規模な保育園であるが、法人内で保育研究部門を有することもあり、法人内研修が充実しているのが特徴である。例えば、本年度では、法人の保育研修部門が子どもの人権について、本法人の職員と、同業の事業者アンケートをしたものと比較するなど、より職員が理解しやすいような材料を作成して、わかりやすく説明しているのが特徴となっている。そのほかにも、法人の保育研究部門が保育士の目線がどこにあるかを本園の職員が協力して調査をして、その結果をまとめるなど、独自の工夫をしている。 個人別の研修計画を策定し、職員が研修内容を選びながら研修を受講している 職員は、キャリアアップの方向性を考慮しつつ、個人別の研修計画を定めた上で、自治体の研修や個人が受講したい研修に、職員のシフトを調整しながら受講している。また、パート職員についても、基本的に年1回、いくつかのWeb研修から選択して受講する形となっている。研修受講後は、研修報告書を作成し、その内容を職員会議で共有している。なお、職員のキャリアアップの研修は、本部と園長が調整して内容を決めている。		

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1) 前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 【課題・目標】 ・「保護者が安心して子どもを預けることのできる施設を目指す」と設定した。 【取り組み】 ・主に3つの取組を行った。1つめは、保護者会や保育参観に加えて保育参加の機会を設けることで、より園で実施している保育がどのようなものかを保護者に知っていただけるようにした。2つめは、毎月の主要な活動をドキュメンテーションとして玄関前に提示することで、園内の活動を保護者が視覚的にも理解していただきやすいようにした。3つめは、非常勤も含めて不適切保育や人権に関する研修を実施した。 【取り組みの結果】 ・上記の施策により、不適切な保育についての意識を高めることができただけでなく、保護者とも子育ての悩みなどを共有することができ、子どもと園との関わりがどのようなものであるかを理解していただくことができた。 【振り返り(検証)・今後の方向性】 ・不適切保育や人権に関する取組は引き続き実施するとともに、保護者参加の機会は今後より充実を図る方向としている。	
目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 本標語を選んだ理由は、過去(5年前)に子どもの人権にとって重大な事件が発生(当事者は退職済み)があり、その後の改善のプロセスの中でも、いくつかの指摘をいただいた過去の経緯があるため、本テーマの選定は非常に適切である。特に、改善にあたっては法人本部が力を入れており、問題があった場合の外部通報機関を整備したりするなど、上記の取組だけでなく、法人全体が取組を行っているため、本テーマを選定したのは適切と考えられる。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

・「保育者が安心して働ける環境づくり」を選定した。

【取り組み】

・職員が働きやすい環境をつくるため、給与等面での待遇改善を行うだけでなく、有給休暇はもちろんのこと、夏期休暇をとりやすい環境をつくったり、残業をほとんどしないですむような仕組みづくり等を行った。また、人材の確保を法人本部が行うことで、採用に努めた。さらに、職員のキャリアアップのための研修に力を入れた。

【取り組みの結果】

・上記の取組の結果、職員を1名補充し、退職者はない状況であったため、人員の充実が図られた。

【振り返り(検証)・今後の方向性】

・引き続き職員の採用に努めたりするなど、同様の取り組みを進めていく。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

本園の職員の定着は、過去には職員の入れ替わりも多かったが、近年は上記の取組を継続して実施していることにより、職員の定着も進んでいるが、昨年の当初計画策定時点では、必要人数は超えているが、十分な保育をするには若干の人員が不足する状況であったため、標語の選定は適切と考えられる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4 / 4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
園や区の公式ホームページなどで園の最新の情報を提供している 区の公式ホームページには足立区小規模認可保育園の利用方法などとともに、園の一覧表があり、そこから施設紹介のページにつながり、連絡先のほか、開所時間、年齢別定員、利用公園や年間行事、保育・施設の特徴、園からのメッセージ等を確認することができるようになっている。写真も掲載されており、保護者は実際の利用をイメージしながら園を選ぶことができるように工夫されている。園のホームページも園の情報を紹介している。また、区の担当課とは定期的に情報をやり取りし、施設紹介では最新の内容を、行政と関係機関に提出している。 園の保育の特徴が利用希望者にしっかりと届くようにしたいと考えている 入園のしおりを用意し、保育理念が「子どもたち一人一人の個性と可能性を大切に、保護者や地域と共に育てる保育」であることや保育方針に「友だちや家族を大切にする思いやりの心をはぐくむ」など3つを掲げていることを紹介している。園の特徴として、ワンフロアで全体が見渡せる保育室があり、保育に携わる全員が保育士の資格をもち、十分な目配りが行き届いた環境となっていることや、晴れた日には公園散歩・散策を日課とし保護者の満足度も高いなどがあり、将来の利用者に園の特徴がしっかりと届くよう、さらに広報を充実させたいと考えている。 見学者を受け入れ、園長が保育内容や園の特徴を丁寧に説明している 見学希望者には前もって電話等で予約をお願いし、日程は見学者の希望を聞いて設定している。30分ぐらいの時間をかけて実際の保育の様子を見てもらうことが多いが短時間で玄関から中を見学することも可能とし、園が大切にしている保育目標や活動、環境などを紹介している。園見学者専用の資料を渡し、持ち物、保育時間、保育士の人数など見学者の質問にも答え、入園申し込みの参考にしてもらっている。園長は、職員と子どもの関わりについて、子どもが入園した時をイメージできるように説明している。見学者の情報は「見学者報告書」に記録している。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望が決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
入園する子どもの保護者には面談をおこない園のルールやサービス内容を説明している 入園が決定した人には園から挨拶の電話を入れ、入園の意思を確認し、児童票、食事チェック表、アレルギーアンケートなどの入園に必要な書類を園に取りに来てもらうか郵送している。健康診断を受けてもらう手順も説明している。入園前面談は候補日から保護者を選んでもらって日程を決め、保護者が記入して持参した必要書類を確認しながら園長が重要事項説明書に沿って説明している。集団生活での約束事、用意する物等の写真、見本も提示し質問にも答えている。慣れ保育の予定や意向食、食物アレルギー等の配慮、個人情報の取り扱いも確認している。 入園という環境変化が子どもにストレスを与えないように慣れ保育を行っている 入園当初の慣れ保育の有無は保護者の職場事情も考慮し、就労の都合や子どもの状態を見て個別に決定しており、少しずつ園で過ごす時間を延ばすなど、子どもの負担を軽減している。園側も、新入園児一人ひとりを理解した上で迎えることができるよう、入園前面談記録や提出された書類で情報を共有している。朝の受け入れではウェブ版連絡帳の記載事項や保護者との会話から子どもの様子を聞き取り、降園時には保護者への声掛けを増やして一日の子どもの様子を伝えている。保護者の緊張が取れ、希望や要望が気軽に話せる関係になるように配慮している。 転園や退園後も、子どもや保護者と継続的な交流を図っていききたいと考えている 保護者の転居など様々な理由で退園していく子どもには写真付きのカードや手紙などを渡して皆でお別れをしている。保護者に不安がある時は個人面談を実施するなど園長がアドバイスをしている。今年は夕涼み会に卒園児を招待し卒園児が元気な姿を見せてくれたこともあり園行事への招待を継続する予定でいる。0歳児から2歳児が在籍する園のため、3歳児クラスに進級する際には全員が他園に行くことになり園は継続的な交流を図っていききたいと考えている。退園・卒園児の住まいが園の近くにある場合も多く近くにきた際は立ち寄って下さいと誘っている。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当	
サブカテゴリー3の講評			
子どもの情報を児童票に集約し、日々の様子と成長する姿を丁寧に記録している 入園前の面談では、保護者の記入した児童票等の書類を基に保護者の意向を聞いている。子どもの基本的な情報、家庭状況、成育歴、発育歴、予防注射の接種状況、緊急連絡先やかかりつけ医などの情報や、保育園までの道順なども児童票ファイルを見れば一目でわかるようにしており、全園児分を一冊にまとめて保管し、最新情報への更新もしている。日々の保護者とのやり取りは送迎時の会話とウェブ版連絡帳を活用し、園児ごとの毎月の個別指導計画は特に丁寧に作成している。日々の活動は園日誌に記録している。 園の特徴や地域性を加味した年間指導計画から月・週の指導計画を作成している 「全体的な計画」は園長が作成しており年間指導計画にも園の特徴や地域特性を加え、3月末には次年度分が出来上がっている。月案、週案は前月、前週の反省をもとに子どもの発達等を考慮して当番職員が立案し園長が確認している。個別指導計画は作成した職員が毎月の職員会議で読み上げ全員で共有している。今後は月案、週案についても前月反省と共に職員全員で共有し意見を出し合う場があると保育活動の充実に繋がると思われる。また、保護者懇談会で保育の狙いを知らせているが週案の掲示等で保護者に指導計画への理解を求めることも必要と思われる。 園日誌、職員ノート、本部も出席する毎月の職員会議等で子どもの情報を把握している 児童票などの子どもに関する情報は必要な時に職員がいつでも確認できるようにしている。保育に携わる全員が保育士のため、記録のスキル等を十分に身に着けている。毎月定例で実施する職員会議で保育内容を共有し、クラスの子どもの様子を報告し合い、共通の認識で保育に取り組めるようにしている。経験の長い職員が多く、園長もわかりやすいアドバイスをを行い問題の解決につなげている。園日誌には保護者からの連絡や子どもの変化等を記入し、職員間の口頭での確認も行い連絡漏れを防いでいる。情報は職員ノートで共有し確認のサインをしている。			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当
サブカテゴリー5の講評		
園でのプライバシーの取り扱いについて入園時に説明し、保護者の理解を得ている 個人情報に関しては特に配慮しており、園で知れた子どもと保護者の情報は他に漏れないように留意している。入園時に個人情報の取得制限、管理、開示等についても保護者に説明している。保護者が外国籍の園児も多く、時間をかけて丁寧に説明している。子どもの生活環境や家族構成等も守秘義務を守っている。重要書類を放置しない、決められた場所での保管、持ち出し注意、来訪者への配慮などに関して園長を中心に職員間で徹底している。子どもの羞恥心に配慮し、おむつ替えは部屋の奥の決まった場所で行い、着替えの場所も配慮している。 肯定的な言葉で語りかけ、一人ひとりの子どもと保護者の価値観を大切にしている 子どもの名前に「ちゃん」「くん」を付け、職員は否定語を使用しないなど、一人ひとりの子どもを大切に開くように職員間で申し合わせている。家庭によって異なる価値観や生活習慣があることを十分理解し、子どもと保護者の気持ちを大切に保育を実践している。送迎時の会話、WEB版連絡帳の記載は、子育てについての意見交換の機会となっており、子どもの家庭での生活サイクルや、保護者の持つ価値観を汲み取るようにしている。全園児について個別指導計画を立て保護者にねらいを伝えている。個人差に十分配慮していることも併せて伝えている。 経験豊富な園長と職員が、高い人権意識のもと権利擁護について学びを進めている 虐待防止に関して様々な研修資料を用いて、職員が共有する機会を持ち、権利擁護の研修では不適切保育の例をあげるなどして、人権に関する意識を高めている。区のガイドラインに沿った「振り返りシート」を使用し、自らの言動や保育を再確認する機会を設けている。職員は日々の保育でお互いの言動やマナーの向上に努めており、人権尊重の保育について職員の意識の高さは随所に見られている。育児困難家庭の支援や保護者支援にも取り組み、配慮が必要な子の保育等で知識と経験の豊富な園長を中心に専門機関との連携も取れている。		

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている ○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ○ 非該当
サブカテゴリー6の講評	
日常保育に必要な手順書、マニュアルを整え、業務の標準化に取り組んでいる 園運営にかかわるマニュアル類は法人本部で作成されたすべてを網羅したものを活用している。食事面(アレルギー対応等)、健康管理(感染症対策等)、事故防止、安全環境、虐待対応、危機管理、苦情解決などが活用頻度が高く、それをもとに園独自の手順書を作って保育の標準化を目指している。幾つかの手順書をラミネートして掲示し職員が確認しやすいようにしている。ベテランが多い環境では慣れた手順や口頭での伝達で済む部分もあるが、新たな入職者を迎える場合は園独自の手順書を冊子にして目次、更新年月日を付け活用することが望まれる。 学びあう意欲の高い職員が意見の言いやすい環境の中で保育の質の向上をめざしている 保育に携わる全員が保育士であり、それぞれが学ぶことへの意欲が高くお互いに学び合うことに熱心で、保育の質の向上に向けて皆で話し合うなど、園内でのコミュニケーションは年々充実を見ている。チームワークの向上に向けた申し合わせや、仲間意識の醸成でも、園長を中心に職員全員で意識して取り組んでいる。今後は、新人が安心してスムーズに仕事に入れるための良好なコミュニケーションのあり方など、工夫が必要な部分も生じることが予想されるが、園長は、園や職員それぞれの強みと弱みを意識しながら、積極的に取り組んでいきたいと考えている。 園独自の手順書等は職員間で検討し、リアルタイムに改訂している 保育の基本事項や手順が、標準的なものとして適切であるかの点検は、年度末に本部が行っている。園では、職員全員に自治体のガイドラインを配布し、理解と共有を心掛けている。食物アレルギーの対応マニュアルについて対象の児童に合わせた手順を検討したり、職員の丁寧な言葉使い等を「接遇」に反映したり、嘔吐物処理、安全点検票、ケガのマニュアル、書きやすい書式の検討なども職員間で話し合っ改定している。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
● あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
子ども自らが玩具を選んで遊べるように発達に合った保育環境を整えている 0歳から2歳までの小さい子どもたちにとって、保育室が安全で楽しく過ごせる環境となるよう職員が助言し合っている。職員は子どもの遊びを見守り、子どもが自ら考えて遊べる環境を作っている。ワンフロアの保育室を柵で仕切って0歳児室を確保し、年齢の違う子どもが同じ空間で過ごす時は、月齢の幅を考慮してレイアウトの変更を行っている。1歳児2歳児は、コーナー遊びやままごとなどのごっこ遊びに夢中なので、電化製品やキッチン用品、職員手作りの玩具も数多く揃えている。子どもたちが作った作品で壁を飾り、季節の雰囲気を出している。 年齢の違う子どもが共に活動する場では子ども同士の触れ合いが深まるようにしている 職員に温かく見守られながら自由に遊び、一人遊びから皆で遊ぶ楽しさを知り、自己表現や達成感を感じることができるようにしたいと考えている。家庭的な雰囲気の中で職員との関わりから自分が大切にされていることを実感し、子どもたちに思いやりの心が芽生えている。異年齢で過ごす中で刺激を受け、理解を深め友達関係を広げること大切と考えている。外国籍等日本語を話さない保護者の子どもの受け入れもあり十分配慮している。発達過程で個別配慮が必要なケースでは専門機関から助言を受け、行動を理解して関わり方を職員が共有している。 子どものトラブルでは互いの気持ちを汲み取りながら援助し、保護者の理解を得ている 年齢の小さい子ども同士のトラブルには、双方の思いを汲み取りながら職員が仲立ちして、気持ちを伝えられるように静かに話している。自我が育つ中で、言葉でやり取りできない時期のため、友だちの遊んでいる玩具を取ったりするトラブルはよくあり、職員はその都度言葉か仕草で伝えるようにしている。ヒヤリハットとして共有し職員が環境を見直してケガの無いように見守っている。保護者にはトラブルの内容を、実際の情景を含めて話し、噛んだ噛まれたでは、場合によっては噛みついた子どもの保護者にも、子どもの心情を伝えながら、事実を伝えている。	

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○ 非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○ 非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○ 非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○ 非該当
評価項目2の講評			
登降園時は園長はじめ職員が、その日の出来事やエピソードを保護者に伝えている 園の玄関を入ると保育室が見渡せる環境のため、登降園時、職員が挨拶しながら笑顔で保護者を迎えている。登園時の対応としては、機嫌は良いか、顔色や全身状態はどうかなど確認しながら一人ひとり検温し、ウェブ版連絡帳の閲覧とともに保護者に子どもの変化を聞いている。発熱等で気になる場合は再度の検温をしている。降園時のお迎えの時間や、いつもと違う人のお迎えの場合、連絡事項がある場合は園日誌に記入して職員間で申し送っている。降園時はその日の出来事を伝えるなどして、親子で会話しながら楽しく帰宅してもらえるように配慮している。 無理なく意欲的に生活習慣を身につけることができるように園と家庭が協力しあっている 天気の良い日は登園後、散歩に出かける準備を済ませ、帽子をかぶり靴を履いて並んで出かけていく。散歩から帰ると帽子を取ってトイレに行き洗面所で手を洗っている。0歳児も1歳児も徐々に一人でできるようになっており、食事やおやつの前と後に挨拶もできている。トイレトレーニングは排尿間隔を把握し、一人ひとりの発達や意欲を家庭と確認し合いながら無理なく進めている。降園時の支度も2歳児になると自分でできるようになっている。職員は子どもの発達を理解し適切な時期に援助しており、自分でできた時は大いに褒めて意欲につなげている。 子どもの年齢や体調、活動内容に応じて午睡や休息を取れるようにしている 長時間一緒に過ごす子どもたちが機嫌よく過ごし、健康を維持するためにお昼寝や休息は大切な時間と考えている。家庭での睡眠時間や体調を保護者から聞いて、必要な子どもには午前中も眠れる場所を設け、午前睡や昼寝をして徐々に一回寝のリズムができるようにしている。子どもたちの個人差を考慮し、早く目覚めた子どもは身体を休めたり静かな遊びをして過ごせるようにしている。園は、0歳児には寝心地の良い午睡用の布団を使用し1歳児からは午睡用ベッドを用意している。午睡時は必ず職員が同室に付き添い呼吸、顔の向きなどを確認し記録している。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○ 非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○ 非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○ 非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○ 非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○ 非該当
評価項目3の講評			
子どもたちが自ら考えて行動できるように配慮し、体験を増やせるようにしている 0歳から2歳までの子どもたち15名定員の小規模の園の良さを生かし、きめ細かい保育に取り組んでいる。職員は各年齢の発達段階を理解し体験を増やせるようにしている。園長はじめ職員は、子どもが人と関わる力を養うためには安心感を持ちながら日々生活することが大切と考え、子どもに向き合いしっかりと受け止めながら声掛けし、子どもの求めている事柄を察知して保育に取り入れたいと考えている。パズルや型はめ、ブロックなど興味関心を持てるコーナーを作り玩具数も豊富に揃えている。雨天や猛暑の日などに対応し、室内遊びの充実も考えている。 様々な表現を楽しみ、言葉への興味と関心を育てる絵本や紙芝居などを用意している 子どもの表情やしぐさを逃さず、気持ちを言語化する力に長けた職員が多く、表現遊びとして季節の制作や描画、歌やリズム、運動遊びなど、いずれも子どもが楽しい気持ちを自由に表現できるようにしている。玩具の入れ替えでは、多すぎず少なすぎず補充するなど配慮している。言葉への興味を広げる年齢の子どもたちのために、絵本や紙芝居などを手に届くところに置き、職員はわかりやすく綺麗な言葉で話しかけ否定的な表現をしないことを申し合わせている。訪問調査時も子どもを抱いて優しく話す職員や丁寧な促しでトイレに行く様子を見ることができた。 戸外遊びや散歩・散策を通して季節の変化を感じるなど、豊かな感性を育てている 戸外遊びや散歩・散策で子どもたちは五感に刺激を受け多くのことを発見している。天気の良い日は毎日散歩に出かけており、職員は子どもの数や天候などを考慮して目的を持って出かけている。近隣には水場や広場がある大きな公園があり、固定遊具で運動をしたり、虫探しの探索活動で発見を楽しんだり、花や木々などから四季折々の季節の変化を体感している。玄関にお散歩マップを掲示し、活動を写真に収めたり、拾い集めた木の実を使った制作を飾るなどで保護者に活動を知らせている。ルールのある遊びやゲームで約束事についても徐々に理解している。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
行事は日常の保育の延長と考え、子どもが興味を持って参加できるように工夫している 小さい子どもたちが楽しめる範囲で季節行事を企画し、手作りの温かい雰囲気大切に、子どもたちの成長につながる行事を実施している。毎月の誕生会のほかに七夕の会、ハロウィンの会、新年お楽しみ会、節分の会、ひな祭りの会などの行事は、絵本を読んで徐々に準備をはじめ、行事にちなんだ歌を覚え、制作作品で保育室を飾って雰囲気を出している。七夕の笹飾りを皆で作ったり、正月を迎えるにあたり年越しの絵本を読み、正月には園の裏にある神社に初もうでに行くなど、日本の伝統行事を大切に楽しい思い出として記憶に残るようにしている。 夕涼み会、クリスマス会を親子参加行事として企画し、親子で楽しい時間を過ごしている 行事は子どもの心に残る思い出になり、経験や成長につながるように企画しており、保護者にも子どもの成長を喜んでもらいたいと考えている。保護者参加行事はクリスマス会と夕涼み会の2回を予定しており、年度の初めに年間予定表を配付し、園だより、連絡帳、掲示等で準備の様子や取り組みを保護者に伝えている。登降園時の会話でもその様子を話している。保護者には上手にできる事が大切なのではなく、成長を喜び視点で見て欲しいと伝えており、行事の為に練習はせず普段の子どもの様子がそのまま表現できることを目標にしている。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが家庭的でゆったり過ごせるように環境を整えている 園は、7時30分から18時30分までの間で保護者の就労等に合わせて利用時間を決めている。8時30分から16時30分を短時間利用とし、入園時に決めた利用時間を守って利用できることになっている。現在は17時30分ごろ降園する子どもが多く、18時30分までの利用は数名となっている。園は指導計画に長時間にわたる保育への配慮を位置付け、家庭で過ごすのと同じようにゆったりできるように配慮している。使用する部屋の環境も日中と変わらず、ホッとできるスペースをつくり、何をしたいかを聞いて玩具を出すなどしている。 降園時には保護者に直接子どもの様子を丁寧に伝え安心して利用できるようにしている 園で長時間過ごす子どもが楽しく過ごせるように、様々な角度から配慮している。保護者の就労やニーズに合わせて保育時間を設定し、保護者へもきめ細かい配慮をしている。降園時、職員は子どもの様子を保護者に丁寧に申し送っている。降園時間が重なり、何人かの保護者が順番に玄関に現れることもあるが、保護者同士の会話も弾んでいる。職員が荷物を持ち、子どもと玄関に行き、膝を落として低い姿勢で子どもと話し、保護者と向き合って今日の出来事を報告し、話題を提供し、笑顔で帰る親子を見送っている。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○ 非該当
評価項目6の講評			
季節の新鮮な食材を使用し子どもの嗜好に合った献立で、美味しい食事を提供している 栄養バランスの取れた献立の中に季節行事にちなんだ食を織り交ぜ、子どもたちの嗜好に合ったバランスの良い給食とおやつを提供している。園調理のため温かい出来立てを提供しており、子どもたちはほぼ完食している。お代わりの用意もある。衛生面に十分注意しテーブルに職員がついて楽しく食べる様子を見守っている。離乳食は完了に向けて個別対応している。椅子とテーブルも子どもの大きさに合わせ、背あてや職員手作りの足台をセットし姿勢よく座って食事ができるようにしている。スプーン、フォークなどの食具も子どもに合ったものを用意している。 食物アレルギー対応や配慮食の提供では、入念なチェック体制で臨んでいる 食物アレルギーの有無や種類は入園前の面談で把握している。「足立区保育園子ども園版食物アレルギー対応マニュアル」、園の「アレルギー対応マニュアル」に沿って個別の対応をしている。当日献立の中から、未摂取食材の有無、アレルギー対応、除去等を確認し、調理室前のホワイトボードに記入し二重三重のチェックを行い、誤配膳、誤食を防いでいる。意向食、配慮食にも対応し、宗教上食べることができない食品の除去も相談に応じている。保護者と面談し、毎月献立を渡し、チェックした食品を園長が再度確認し、調理、盛り付けでも注意している。 夏野菜の栽培や、絵本や歌を題材に年齢に合った楽しい食育活動に取り組んでいる 年齢に合わせた食育活動として食材がモチーフの絵本を読み歌を覚えるなど、楽しみながら食に関心が持てるようにしている。栄養士の働きを子どもに分かりやすく掲示して説明し、食事では無理強いせず色々な味を体験することで、苦手な食材も口にできるようになっている。プランターに植えた夏野菜の成長を観察し、収穫を体験した。トウモロコシなどの野菜を皆で触って感触を確かめ、子どもたちが食に対して積極的な気持ちになるようにしている。食育だよりには人気のレシピ等食に関する話題を掲載し家でも食育に関心を持ってもらえるようにしている。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○ 非該当
評価項目7の講評			
感染症予防やケガ、病気の予防について子どもたちと一緒に確認している ワンルームでの保育のため感染症予防や蔓延防止については力を入れている。戸外遊び後の手洗いも、洗面にイラストを張るなどして年齢に応じた方法で促している。どのクラスも季節の自然に触れ十分な身体機能を刺激した活動を多く取り入れており健康維持に配慮している。散歩に出かけるときは道の歩き方、横断歩道の渡り方、公園の遊具での遊び方など、子どもが自ら注意し事故やケガを避けることができるように話をしている。絵本、紙芝居、パネルシアター、図鑑などを活用し健康教育に取り組んでいる。職員が常に安全等への配慮を心掛けている。 園医による年2回定期健康診断、毎月身体計測等を通し子どもの健康管理を徹底している 園医が来園し、全園児について年2回定期健康診断を実施している。医師とはなんでも相談できる関係を築いている。定期健康診断の結果、毎月の身体計測の結果を保護者に知らせている。医療的なケアが必要な子どもの入園については、入園前面談で状況を把握し、医療機関の意見書で配慮事項を確認し、保護者と療養機関からの情報を共有し、集団生活の中で十分留意することとしている。安全管理および衛生管理マニュアルを整備し、安全点検表を活用してヒヤリハット記録も記入し、小さい子どもの通う園として、安心できる環境づくりを第一に考えている。 乳幼児突然死症候群や子どもの疾病や感染症情報を保護者と共有している 乳幼児突然死症候群については、午睡時に呼吸チェックを実施し、顔と体の向きも記録している。午前睡など、子どもがウトウトした時も職員が気を配っている。登園時に検温をお願いし、その日の体調を確認している。感染症発生時には掲示物で速やかに保護者に知らせている。入園時には子どもがかかりやすい感染症の取り扱いについて重要事項説明書の中で説明している。園だよりにも「薄着の習慣」「夏風邪に注意」など季節の健康情報を掲載し、区からのお知らせ等も掲示して保護者宛に情報提供している。吐物処理セットも常備している。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○ 非該当
評価項目8の講評			
保護者の子育てや就労を応援し、いつでも気軽に話しかけてもらえる園をめざしている 入園前の面談では、保護者の就労状況に応じて意向を確認し、様々な理由による急な変更にも柔軟に対応している。通院や予防接種などによる登園・降園の時間への配慮も個別の申し出を受け対応し、園は保護者一人ひとりの意向を大切に考えている。常に保護者の立場に立った対応を心がけ、いつでも気軽に話しかけてもらいたいと考えている。経験豊富な園長は保護者とたくさん話したいと考えており、会話や相談などの場面で保護者の意見や要望も聞いている。園だよりに季節の話題や育児のポイントを掲載し、保護者の思いを聞いて日々の保育に活かしている。 連絡帳、園だより、写真掲示等で子どもの姿や活動を知らせ、保護者の意見を聞いている 保育の見通しを保護者と共有し理解し合うために、園だより等で保育のねらいを説明している。子どもの日々の活動シーンを職員手作りのドキュメンテーションで紹介し、園玄関に掲示している。ウェブ版連絡帳には、その子どもの表情や微笑ましい姿が伝わるように週に数回、写真を添え配信し、活動の様子が分かりやすいと保護者に好評となっている。夕涼み会、クリスマス会等の保護者参加行事は土曜に実施し、行事後は保護者からの感想を聞いて次の企画に活かしている。「保育園評価」の集計結果を保護者にフィードバックしている。 保育参観・参加、個人面談を実施し園と保護者が思いを伝え合う機会を数多く作っている 保護者の理解が浅くならないように、園は最大限工夫をしている。年2回の保護者懇談会の持ち方に工夫を加え、資料を配付し、前半は園からのお知らせ、後半は前もってテーマをいくつか提示して、保護者が話す機会を設け保護者同士の交流につなげている。10月から11月にかけて保育参観と参加の機会を設け、申込制で日頃の子どもの姿を見てもらっている。参観後は感想を聞き、給食試食の機会を設けるなど工夫している。6月と年度末に個人面談を計画し、希望者から申し込みを受け付け、担任と保護者が保育の見通しや子どもの様子を伝え合っている。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○ 非該当
評価項目9の講評			
子どもたちが地域や社会に興味を持てるようにしている 幹線道路から少し入った静かな住宅街のマンションの一階に位置する園は、荒川と隅田川に囲まれ、土手にも近い自然豊かな地にある。商店街等は隣接していないが、園で行う日本の伝統行事と、地域の季節の飾りつけや雰囲気に合わせて体験できるように散歩ルートを考えるなどして子どもたちが地域を知る機会を作っている。散歩の途中で子どもたちは地域の人に挨拶し、地域に見守られていると感じることも多い。0歳児から2歳児までの園として3歳児から他園に通うことも考え近隣保育園との交流や、年長児と触れ合う機会も期待される。 地域との交流や連携を視野に、今後も積極的にアプローチしたいと考えている 保護者参加行事のクリスマス会は図書館の入っている児童館を借りて実施している。園の案内を児童館に置いてもらっている。園のあるマンションとは災害時の協力体制について話し合っており、荒川、隅田川の水害が予想されるため、マンションの6階に垂直避難が可能となっている。また、マンションのキッズスペースの利用も可能となっている。公共施設の利用や、他園との交流や高齢者施設との交流については、法人とも相談して積極的にアプローチしたいと考えている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	保護者の意向、ニーズを的確に把握することに努め、理解を深める取り組みをしている	
内容①	年2回の保護者懇談会の持ち方に工夫を加え、ほぼ全家庭が参加している。秋には保育参観と参加の機会を設け日頃の子どもの姿を見てもらい、参観後は感想を聞き給食試食を企画するなどしている。個人面談を計画し、申し込みを受けて担任と保護者が保育の見通しや子どもの様子を伝えあっている。子どもの日々の活動シーンを手作りのドキュメンテーション掲示で紹介し、連絡帳には子どもの表情や微笑ましい姿が伝わるような記述に写真を添え配信している。保護者参加行事の夕涼み会、クリスマス会は土曜に実施し親子で楽しめるような企画で実施している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	職員間で支え合い協力し合って、個々の子どもとの関わりを大切にした保育を進めている	
内容②	小集団での活動が可能なため個々の子どもの発達や状況にあった保育を常に心がけている。出来上がった個別指導計画を毎月の本部出席の職員会議で読みながら共有し、職員によって子どもへの対応や声掛けに違いが起きないようにするなど、子ども主体の保育に取り組んでいる。子どもの成長にプログラムを合わせることも大切と考え、プラスの部分を増やす視点で職員がアドバイスし合って保育する姿が見られている。ローテーションで勤務する職員はお互いをカバーし合って連携よく動き、職員同士が微調整しながら協力して保育の充実につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-2-2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル③	不適切保育に関して、職員研修の充実を行うだけでなく、外部機関への連絡先も周知した	
内容③	不適切保育が発生しないようにするため、非常勤も含めて不適切保育や人権に関する研修を実施した。あわせて、職員が、コンプライアンス、あるいは保育の内容について問題を感じた場合、園や法人本部だけでなく、外部機関に直接相談を出来るシステムをつくっており、職員に周知をしている。また、コンプライアンス研修を非常勤職員を含めて、年1回実施している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員が有休や夏期休暇を安心してとれるなど、働きやすい環境をつくっており、職員が定着している
	内容	職員が働きやすい環境をつくるため、残業時間の軽減を図るだけでなく、有給休暇だけでなく夏期休暇も職員の意向を反映した内容にしたり、書類関係の作成を法人本部が多く分担することで、働きやすい環境をつくっている。また、年2回職員との親睦会を開催したり、賞与の改善などを行っている。その結果、開園して7年経過した中で、この3年間は職員の定着が進み、平均勤続年数が3.6年と長くなっており、安定した園運営ができています。
2	タイトル	小規模園の良さを活かしたきめ細やかで丁寧な保育を目指し、子ども一人ひとりの発達に応じた保育環境と遊びの充実に取り組んでいる
	内容	0歳から2歳までの子どもたち15名定員の小規模園の良さを生かし、きめ細かな保育に取り組んでいる。環境設定では子どもが体験を増やせるように工夫し安心感を感じながら過ごすことで人と関わる力を身につけて欲しいと考え、子どもに向き合い、職員がしっかりと受け止めながら見守っている。表現遊びとして季節の制作や描画、歌やリズム、運動遊びなどでは楽しい気持ちを自由に表現できるようにし、職員の手作り玩具も豊富に揃え、子どもが手を伸ばせば届く位置に玩具を置き、パズルやブロックなど子どもが興味関心を持てるコーナーも作っている。
3	タイトル	事業継続計画(BCP)を作成して、特に水害を想定した防災対策に力を入れている
	内容	事業計画計画(BCP)は、法人本部が作成している。本園の特徴として、隅田川と荒川にはさまれた新田地域の特性に応じた内容で作成されており、主に津波による水害や、地震等を想定している。津波による水害については、園の入る大型マンションの上層階(隅田川等の水面の高さより上の階)への避難ができる体制となっている。また、保護者の方を対象として、災害時の引き取り訓練も実施している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域で子育てしている人向けに、園の有するノウハウを無理のない形で提供することが期待される
	内容	現時点では地域で子育てをしている人向けの事業が未実施となっているが、職員の定着も進んだことや、職員一人ひとりのスキルの向上が着実に進んだことにより園運営が安定してきたことを受けて、今後は小規模園でも可能な手法で地域の保護者向けの講座や情報提供を行うことが期待される。こうした取り組みに向けて、法人も交えて実現可能な方策を検討し、保育園現場職員の理解とモチベーションの向上を合わせて図って行くことが期待される。
2	タイトル	職員全員が有資格者であることや安心安全に配慮された環境や活動など、特徴をよりわかりやすく発信していくことが期待される
	内容	本園は、小規模園として地域に密着した事業を行っており、ワンフロアで全体が見渡せる保育室で、保育に携わる全員が保育士の資格をもち、十分な目配りの行き届いた環境となっている。晴れた日には公園散歩・散策を日課とし保護者の満足度も高いなどの特徴がある。園のこうした特徴について、地域の方に向けて発信していく余地が十分にあると思われる。本地域では現時点では比較的子どもが多い地域であるものの、将来の子どもの減少に備え、SNSも工夫するなど、園の特徴をよりわかりやすく地域の方に伝える工夫を進めていくことが期待される。
3	タイトル	1週間から2週間の週案を活かし、保護者に保育の日常的な計画内容をよりわかりやすく伝えることが期待される
	内容	保育の日常的な活動については、登園、降園時の職員との会話や、ICT機器を活用した連絡帳を活用して、円滑に保護者と情報交換をしているため、利用者調査の内容を見ても、意思疎通は適切に行われている。さらに、保育への理解を深めるため、保育指導計画の周知を求める保護者が増えている。園では、保育内容をより理解しやすくするため1週間から2週間の週案の要約を掲示している。こうした掲示を活かし、保護者に保育計画の内容を伝えていくことが期待される。

